



## 夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2022.9.26 号

夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。  
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

### 「能力」ではなく「努力」をほめることが大事

前号からの続きです。

私がこの園に勤める前、同じ学園のコンピュータの専門学校で働いていました。船橋情報ビジネス専門学校です。今回のニュースレターは、先生たちの期待を裏切り続けたA君の話から始まります。

A君は、ぱっと見たところ明るい性格のようでした。先生たちには気さくに話しかけてきます。クラスの中でも存在感があります。頭の回転も早い学生でした。

しかし手を抜くのです。一生懸命勉強しません。やればできるのに…と先生たちは残念がりました。しかし本人は一向に気にしません。相変わらず明るく振舞っています。

そんなある日、担任の熱血先生がA君をつかまえてこんこんと言い聞かせました。「今度の検定試験は大切だ。わからないところは俺がマン・ツー・マンで教えるから、勉強に向き合ってみよう！」。

A君によると、かつてそこまで親身になってくれる人はいなかった、だからこの先生を信じてがんばってみよう、と思ったそうです。

A君は毎日夜遅くまで学校に残り、補習授業を受けました。それから質問もたくさんしました。試験の前日など「こんなに勉強したことなかったよ、先生！」とまで話していたそうです。

ところが試験当日。A君は欠席しました。かぜをひいた、と連絡がありました。

「おかしい…」と思った担任の先生は、A君が登校してきたとき聞きました。「なぜ欠席したの？本当の理由を言ってみなよ」と。

担任の先生の真剣なまなざしと、自分を責めていない温かい態度。A君はポロポロと涙をこぼしました。

### 「…ずる休みです。急に試験が怖くなりました」

後から、その担任の先生が私に解説してくれました。

**「あれが彼らの『最後のプライド』です。毎日毎日一生懸命勉強して、努力して、それで結果が悪かったらどうしよう。それでは自分が本当に『ダメ』であることが証明されてしまう。だからA君には言い訳が必要でした。試験当日、急に体調が悪くなった。だから実力を発揮する機会を逃してしまった、というわけです」**

前号で、人間の根源的な欲求として「自己原因性感覚」を紹介しました。

### 私には「能力」がある。その「能力」を使って 周りの環境を変えることができる！

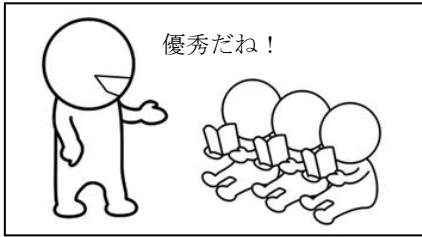
ボクにはきっと何かの「能力」があるに違いない。成績が悪かったのは、友だちと遊んでいたり、ゲームをしていたからだ。体調を崩したせいだ。能力のせいじゃないのだ。

これが、やる気を見せない子どもの深層心理のひとつです。本当はこうした子どもは、自分の能力を証明したくてしょうがないのです。その切実さが強過ぎるあまり、敢えて「やらない」。それが「最後のプライド」なのです。

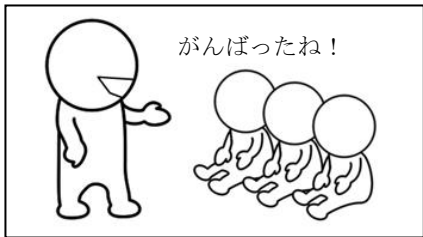
そんな子どもにどう対処したらよかったのでしょうか？

スタンフォード大学のキャロル・ドゥエックの研究を紹介します。数百人の子ども(小学5, 6年)に知能検査を行います。その結果を受け

て、グループを2つに分けてほめました。



**A:能力をほめるグループ**  
「キミたち、頭いいね！」



**B:努力をほめるグループ**  
「キミたち、よくがんばったね！」

その後、経過を観察すると…

「A：能力」グループに対し、次に取り組む問題を選ばせます。すると失敗を恐れて、難しい問題・新しい問題への挑戦を避けようとしてしました。

一方「B：努力」グループのほとんどが新しい問題に挑もうとしたのです。

やがて「A：能力」グループの成績は下降し、自信も失っていきました。一方「B：努力」グループの方は、難問にも挑戦し続け、結果的に成績も上がりました。「能力をほめる」と成績が下がり、「努力をほめる」と上がる。これはなぜでしょうか？

| 表のメッセージ | 裏のメッセージ       |
|---------|---------------|
| 能力をほめる  | 親・先生から評価されている |
| 努力をほめる  | 親・先生から応援されている |

子どもに与えるメッセージには表と裏があります。「能力をほめる」ことは「評価されている」というメッセージを与えます。一方「努力をほめる」ことは「応援されている」と子どもは受け止めるのです。

つい子どもに「頭いいね!」「賢いね!」と口に出てしまうことがあります。しかし意識して、**がんばったね!**と「努力しているプロセス」をほめてみる。すると「努力し続ける子」に育ちます。これはむしろ、

**「ほめる」というよりも「認める」**

ということでしょう。

英語で表せば、「very good (とてもよい)」ではなく「good enough (これでよい)」になります。ひとつひとつのプロセスを大切にする姿勢を育みたいものです。



(終)